



新本っ子

学校通信 No. 12
令和3年 6月発行
新本小学校
令和3年6月18日

【学校教育目標：豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成する】

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

～5年生 赤米の田植えを体験～



5年生が15日（火）、本庄国司神社の水田で、赤米（あかごめ）の田植えを行いました。赤米とは、玄米の種皮に赤い色素を含んだ古代米で赤飯のもとになったものとされ、伝承している地域は総社市も含め、全国でわずか3カ所だそうです。本市では御神饌米（ごしんせんまい：神に捧げるお米）として、新本地区の本庄と新庄の両国司神社

で栽培されています。

5年生で、総合的な学習の時間に「赤米」（あかごめ）の調べ学習を行ったり、社会科で農業について学習をしたりしています。そうしたことから、地域の赤米保存会の方々にお世話になり、赤米の田植え、観察、稲刈り体験などを行っています。

当日は、赤米保存会の方、保護者の方々も見守りに駆けつけてくださいました。田んぼに入る際には、「ぬるぬるする！」「きゃー！」「気持ちいい！」など歓声をあげながらも、田んぼの感触を味わい楽しんでいました。そして、横一列になって田んぼの両端から引いたロープの赤い目印に沿って、苗を数本ずつ手に取って、ていねいに植えていきました。そして、5年生全員が無事に赤米を植えられることができました。



田植えを終えての振り返りでは、「ロープのポイントに沿って間隔よく植えられた。」「昔の人はていねいに、稲を手で植えていたんだなと感動した。」など、実感的な感想が聞こえてきました。

実際に田んぼに入り、苗を手で植える機会はそうあるものではありません。地元で大切に受け継がれている赤米を学習していく上での貴重な体験ができました。

田植えのために苗や道具の準備、草刈りなどお世話になり、応援いただいた赤米保存会の方々、駆けつけ温かく見守りいただいた保護者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

6年生 赤米子どもリモート交流【6月25日（金）実施予定】

～南種子島（鹿児島）、対馬（長崎）の小学生と交流～

6年生が6月25日（金）5校時に、赤米を伝承している他地域の小学生とリモート交流を行う予定です。交流相手校は、対馬市立豆酩（つつ）小学校（長崎県）、南種子島町立荃南（けいなん）小学校（鹿児島県）。赤米伝統文化の伝承でつながっている地域の小学生が「それぞれの地域のことをもっと知ろう！」というめあてで交流を行います。

当日は、赤米大使の相川七瀬さんにも特別講師としてリモート参加いただき、



赤米文化について教えていただく予定です。

赤米交流を通して、地域で大切に伝承されている赤米についての理解や他地域の小学生との交流を深められるとともに、楽しい交流になることを期待しています。

交流に際しては、総社市の観光プロジェクト課の方々にお世話いただいたり、当日は片岡聡一総社市長にご来校の上、リモート交流にご参加いただいたりと、多くの方に支えられ実施される予定です。

思いやり【6月7日（月）（放送朝礼）】

孔子(こうし)

今日は、「思いやり」ということについてお話をします。
今から 2,500 年ほど前、中国に孔子という、とても偉い学者さんがいました。その頃の中国は、「戦国時代」といってたくさんの国々が天下統一を目指して争っていました。孔子は、そんな国々をまわって歩き、「王様はどんな心で国を治めて政治を行っていかなくてはいけないのか」、「人はどのように生きていけばいいのか」ということをたくさんの人々に教えていました。その教えはお弟子さんたちによって、『論語』という書物にまとめられ、今でも多くの人に読み継がれています。



『論語』の中に、こんなことが書いてある所があります。

「孔子先生、人間として生きていくために一番大切なことはなんですか。」この質問に対して孔子先生は、「それは『思いやり』だよ。」ときっぱりと答えました。そして、「思いやり」というのはね、『自分がされて嫌なことは、ほかの人にしてはいけない。』ということだよ。」と教えたのです。

みなさんは、自分の悪口を言われれば、悲しいですよ。だれだって自分の悪口は言ってほしくないんです。だったら、友だちにも悪口は言ってはいけないのです。

自分がたたかれれば痛いですよ。たたかれて嬉しい人はいません。だったら、『友だちをたたくことはやめましょう』ということです。

自分が仲間はずれにされれば、とてもつらいですよ。だったら、『友だちを仲間はずれにしてはいけない』ということです。それが、『人間が生きている間、絶対にしなくてははいけない【思いやり】であり、大切なことは『自分がされて嫌なことは、ほかの人にしてはいけない。』ということだと、2,500 年前の孔子は言っているのです。これは、今も昔もそして、これからも変わらないことです。『自分がされて嫌なことは、ほかの人にしてはいけない。』というのは、逆に言うと『自分がしてもらったらうれしいことを、ほかの人にもしてあげましょう。』ということになります。

もし、自分がこんなことをしてもらったらうれしいだろうなあ、ということをや友だちにもしてあげられたら、きっと、もっとみんなが仲よくなれるでしょう。寂しそうにしている友だちがいたら、声をかけて一緒に楽しく遊ぶとか、悲しそうにしている友だちがいたら、話を聞いて励ますとか、自分がしてほしいことをほかの人にもしてあげられたら、すばらしいですね。

今日は「思いやり」について、お話をしました。お話を終わります。